多賀城民報

題字は池田和京さんにご揮毫いただきました。

新図書館設計素案

「市民との共同」を基本方針としていながら…

市、公表もせず、意見も求めず

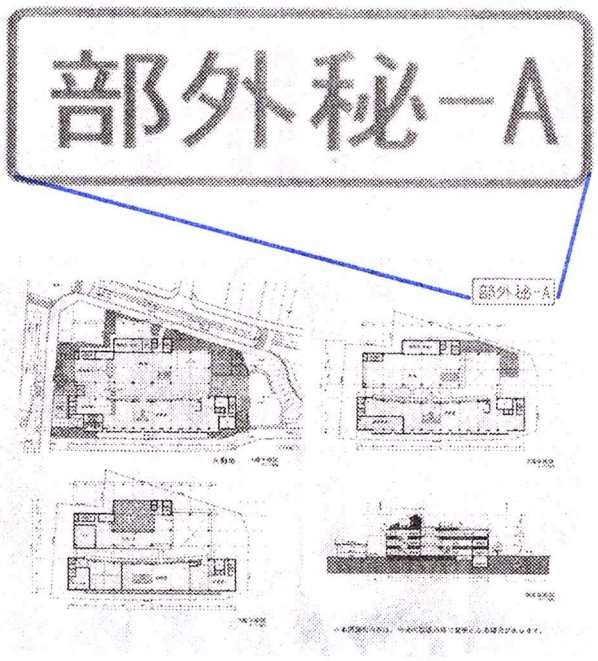
11・13日本共産党市議団、市長・教育長に申し入れ

11月13日午後、日本共産党多賀城市議団（藤原益栄団長）の藤原益栄・柳原清両市議は、先月10月10日の東日本大震災調査特別委員会で説明のあった新図書館設計素案の資料の扱い方や内容について、多賀城市長・市教委教育長に是正を求める同趣旨の申し入れを行いました。

党市議団の申し入れは「1 設計素案を市民に公表し広く意見の公募を」「2 新図書館の設計素案について」「3 運営形態等新図書館に関しては教育委員会が自主的判断を」の3項目です。

「1」では、市当局が、新図書館設計素案を市民に公開せず意見も求めず、そうした進め方について議会にも同調を求めたことを問題にし「こうした姿勢はただちに改め、市民に公表し広く意見を求めるべきである」としています。

市当局は特別委員会で映像等により説明をおこなった際「この会議が終わった段階で、資料として…お手元にお届けしたい」（副市長）と述べ、配布をしました。その一部が左図で、右上に朱色で「部外秘」としています。しかしこの「部外秘」扱いは議会運営委員会等でなんら確認されておらず、市当局の一方的判断でなされたもの。意図はどうあれ、客観的には議会に対しても市当局と同様の態度をとるよう求めたことを意味します。

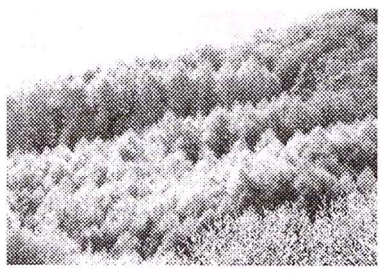


こうした資料の取り扱いは、当局と議会と住民との関係で、住民から「議会も当局の身内で一体」などと、議会がチェック機関として信頼を失いかねないどの問題をはらんでいます。

しかも今回は多くの市民が利用する施設に関する情報であって、秘密にするなどあり合えません。申し入れでは「本市の『市民との共同』という基本方針にも反する」として早急な是正を求めました。

「2」では新図書館の設計素案について、問題と思われる点の是正を求めました。

第一に「危険な高架書架と吹き抜けはやめよ」と申し入れました。設計素案では、駅北ビルA棟の南側を新図書館、北側を商業施設とし、新図書館北側の壁に、1階から3階まで13メートルにわたり本棚にし本を積み上げようとし、2階・3階には幅1・5メートルのキャットウオークを設け、その北側は2階・3階ともに幅4・5メートル前後の吹き抜けとなっています。したがって、3階の高架書架での本の出し入れ作業は、1階から12メートルもの高さでの極めて危険なものとならざるを得ません。地震発生時には3・2階の書籍が1階まで落下することも心配されます。以上から「高架書架と吹き抜けはやめる」よう求めました。



第二に閉架書庫が現図書館よりも少ないスペースになることを問題にし大幅な増床を求めました。

床面積は約1千5百平方メートル（現図書館）から約3千平方メートル（新）の倍になるとされていますが、新館の閉架書庫スペースは145平方メートルで、現在の162平方メートルをも下まわっています。「これでは将来の館の運営に大きな支障をきたす」と大幅な増床を求めました。

第三に、1階出入り口の児童コーナーは安全面から不適当で二階に上げるなど再検討を求めました。また、読み聞かせコーナーが不明確なため設置を求めました。

第四に事務室の場所と方ウンターは隣接していることが望ましいこと、広さについては現在の108平方メートルから3分の1以下の32平方メートルとなることを問題にし「十分な作業スペースとはいえない」と抜本的な増床を求めました。

「3」では新図書館は一企業の思惑に左右されることなく、教育的見地から市教委が自主的に決定すべきことを求めています。

申し入れ全文と解説は次週以降に掲載する予定です。

なお、佐藤惠子・戸津川晴美両市議は出張中でした。

日本共産党
多賀城市議団
多賀城市留ケ谷一丁目11番23号
代表（364）3222
FAX（309）3910

◇弁護士による
法律相談
◇申込
電話で予約して下さい。
◇電話
364-3222
◇相談日
11月27日（水）
12月4日（水）
◇時間
午後1:30～
◇場所
旧阿部福商店となり塩釜県民の会事務所

◇議員による
暮しの相談
電話
藤原益栄議員
368-6623
070-6497-6623
佐藤惠子議員
367-0182
090-2027-9884
柳原きよし議員
368-1883
090-2605-4984
戸津川はるみ議員
090-7528-2075

東風城月

立冬から一週間が過ぎ山茶花がきれいな時期になった。多賀城市の市制施行記念日の頃に咲く花なので市花に選定されているが、本市あたりが北限とかで寒さにはあまり強くない▼命名の由来は山に咲くお茶の木に似た花ということのよう。この「山茶花」古くは「サンザカ」と呼ばれていたらしい。金田一春彦先生によれば「アラタシ」が「アタラシ」となったのと同じとか（ことばの歳時記）。私は白い花が好きだ▼この季節、実も葉も見事に紅葉するナナカマドもよい。名の由来はなかなか燃えにくいからだとか。めっぽう寒さに強いので市木にしているのは圧倒的に北海道。東北では鹿角市、山形市など少ない。市木ではないが盛岡市などは街路樹にしている▼最近まで「ナナカマドはあまり見かけないな。比較的暖かいからか」などと思っていたら、ズラリと植えているうちがあった。あまりに見事だったので思わずシャッターを切った。本市では魚と同様、寒暖両方の植物が見られるということか▼この数日、急に寒さが厳しくなった。私は氷点下10度が珍しくないところで育ったのだがどうも寒さに弱く風邪もなかなか治らない。冬将軍到来。読者のみなさんもくれぐれご自愛を…。